

は扱いつらい。かといってへらへらしているだけではいけない。情熱がありながら冷めていなければいけない。読解力もいる。知性と協調性も要求される。これらのすべてを備えてこそ女優である。

「どんな女優がお好みなのですか」と聞かれて困惑する時がある。女優はどんな女優も素晴らしい。優れた女が女優である。

「好いとつと」ある。遠回しに「だったんですか」と聞くと、次の日の稽古場の演出席に、セピア色に焼けた若い美人の白黒の写真が置いてあった。見入っていると、入江杏子さんが近づいて来て「わたしにもこんな時代があったので

はれたことがある。小ぶりだが、立派な柱があった。「いい柱ですなえ」というと「榎が担いで持って来たんですよ」と事もなげにおっしゃった。この無防備さと無邪気さとおおらかさが、だれからも好かれる原因なのかもしれない。料理も上手い。

女優とは優れた女

ただ、いま仕事をしている女優さんがなにより素晴らしい。有名無名は問わずにである。

入江杏子という女優がいる。劇団民藝の女優である。入江杏子さんは1987年の「力道山」を経て、92年8月の「精霊流し」

でありつつ、品があった。入江杏子さんは作家榎一雄と愛人関係にあったそうである。「夕日と筆銃」の作家榎一雄で

すよ」と呟いた。入江杏子さんは「火宅の人」の矢島恵子の子で、モデルであるといわれている。入江杏子さんの家に食事に呼

榎一雄の時世の句は「モガリ 幾夜もがらせ花一逢はん」である。入江杏子さんは「あれは榎がわたしに送ってくれた句なんです」と譲らなかつた。こんな女優が好みである。明日は、入江の杏子さんが杖をついて、我が家に食事にいらっしゃる。

「女優になればいいのに」という人がいる。そんなに簡単に女優にはなれない。プライドはあるが、プライドが邪魔をする。自尊心で固まっている女優

からわたしのチームに参加してくれている。博多生まれの入江さんにとっては、松浦弁はお手の物であった。アクセントもイントネーションもはっちりであ

「肥前松浦兄妹心中で岸田戯曲賞を、89年に「亜也子」で紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。日本劇作家協会元理事。松浦市で毎年、子供たちにミュージカルを指導している。川崎市在任。70歳。

おかべ・こうだい 1997年

「むねの清水あふれてつひに濁りけり君も罪の子我も罪の子」(与謝野晶子)

(松浦市出身)

